

# vivo

水戸芸術館音楽紙[ヴィーヴォ]

## 2&3

FEBRUARY / MARCH  
2010

### CONTENTS

モーツァルト:  
ピアノ・ソナタ全曲演奏会【第6回】……………1  
合唱セミナー2010 講師:藤井宏樹……………2  
SELF PORTRAIT  
茨城音楽文化振興会・山口泉恵・後藤晴美 ……2~3  
最近の公演から・プチ情報……………4~5  
インフォメーション……………6



野平一郎

## 野平一郎氏の3年間にわたる大企画、遂に最終回 !!

### ● 3/6(土) モーツァルト:ピアノ・ソナタ全曲演奏会 第6回

今日のがわ国を代表するピアニスト、作曲家の野平一郎さんをお迎えて、モーツァルトのピアノ・ソナタ全曲を、ソナタ以外の小品も織り交ぜながら、作曲された年代順に、演奏していただくという本シリーズ。1年に2回ずつ、3年(6回)をかけてお届けしてきましたが、来る3月に、いよいよその最終回を迎えます。

1月23日の第5回公演直後の野平さんに、最終回に向けてのお気持ちなどをお聞きしました。その時のお話をご紹介します。

#### 野平一郎さん インタビュー

—— 3年間におよぶ「モーツァルト:ピアノ・ソナタ全曲演奏会」も、いよいよ最終回を迎えようとしています。現在のお気持ちをお聞かせ下さい。

感無量です。モーツァルトは、とても好きだし…。歩みは早かったなあ、という感じですね。ここまで来るのが、あつという間でした。

本当に素晴らしいお客さんに恵まれて。これは本当に真実です。毎回注意深く耳を傾けてくださるお客さんで、こちらが恐くなるくらいでした。僕が説明していると、食い入るような感じで、シーンと聞いてくださっているとしました。そういうお客さんに支えられて、ここまで来れたのだと感じています。

モーツァルトは、西洋音楽の高みの一つです。したがって、安易にはアプローチすることはでき

ないと思っています。自分の日常のようなものを持ち込みたくないと思う音楽です。自分にとっては手を出せないアンタッチャブルな存在という感じです。しかし、アンタッチャブルという訳にはいかないのが(笑)、頑張ります。

——水戸のお客様に向けてメッセージをお願いします。

(モーツァルトの音楽の世界は、)さらに先があるのだということをお伝えできたかと思っています。今日(1月23日)の演奏会では、モーツァルトが作曲家としてデビューして、わずか20数年で書かれた作品をご紹介しました。この時点で、すでに、ここまでに至っているのですから驚くべきことです。しかし、まだこの先があるのです。そして、彼が30代半ばで死ななかつたらどうなっていたのだろうかということも考えたくありませんね。そういう事を垣間見せる作品を、最後の演奏会では取り上げますので、ぜひ聴きにいらして、その世界に触れていただきたいと思います。

また、今度の演奏会では、ピアノを習っている方なら誰でも知っていると思う〈ピアノ・ソナタ第16番K.545〉も演奏しますので、ぜひ聴きにきて下さい。

以下、野平さんが第6回公演で演奏する作品について綴った文章の一部を再掲します。

\*\*\*\*\*

〈第16番〉のハ長調のソナタを知らない人はいないだろう。ピアノ学習者が必ず学ぶ作品だろうが、こんなに素直で純粋な、開かれた主題を、一体モーツァルト以外に誰が書けるというのだろうか。彼の耳によって選別され、これ以上削れない必要最小限の音が、しかし次から次へと楽譜から溢れ出してくる。子どもが良く弾くとはいえ、経験を重ねれば積むほど、またこの作品の見方も異なってくるような味わいの深いものである。

〈第17番〉は、もともとヴァイオリン・ソナタとして知られていた作品で、そうしたかたちでの譜面も存在している。そのためか、実際弦楽器の持つレガートを強く印象付ける作品である。本当にピュアであり、印象としてはもう死の年(1791年)の作品かと思いを違えるようなところがある。変口長調というれっきとした長調の作品ながら、ここには一種の諦観の美がある。

〈第18番〉は、いよいよ最後の作品。何かここには今までの鍵盤作品の総括をするかのような、「総合的な」感じが漂っている。対位法や和声の素晴らしさに加えて、優美なところ、諧謔的なところ、奔放なところ、気高いところ等々、モーツァルトの表現のすべてがここにある。

野平一郎

モーツァルトの最晩年の境地にスポット・ライトを当てる感動の最終回!皆様のご来場をお待ちしております。

《中村》



藤井宏樹



茨城音楽文化振興会

## 前回大好評だった藤井宏樹氏が再び講師を務めます！

● 2/28(日) 合唱セミナー 2010 講師：藤井宏樹

合唱を愛する皆様のために毎年開催している「合唱セミナー」。畑中良輔、林光、池辺晋一郎、新実徳英、栗山文昭など、日本を代表する作曲家、指揮者、合唱指導者をお招きし、毎年充実した「合唱の一日」を過ごして参りました。一生忘れることができない、人生の糧ともなるような音楽体験が、このセミナーの場で生み出されることも大変多く、参加者の方々からその熱烈な体験談を聞かせていただく機会も年々増えています。

### 合唱指揮者・藤井宏樹氏

さて、昨年の藤井宏樹氏によるセミナーも、合唱の技術的な指導にとどまらず、歌う意味、ひいては生きる意味について考えさせられる、心に残るセミナーでした。三善晃作曲の〈木とともに人とともに〉を講習曲に選び、言葉の一つ一つの意味や響きを突き詰めて考えながら、曲を仕上げていきました。参加者の皆様には、また生涯忘れ得ぬ体験がひとつ加わったセミナーだったのではないのでしょうか。

今年は、昨年大好評だった藤井宏樹氏を再びお迎えしてセミナーを行います。実は、藤井氏は最

近、合唱関係の講習会や演奏会を通じて茨城との関わりを深めているのです。水戸芸術館でも、2008年2月に開催された女声合唱団アルモニア Rosa の演奏会で客演指揮を務めたほか、今年1月16日に開催された Coro La DIVA の演奏会でも客演指揮者として登場し、三善晃の〈三つの抒情〉ほかを指揮、大好評を得ました。このような演奏を聴くと、「自分もあの指揮者のもとで歌ってみたい」とお思いになるのではないのでしょうか。その思いは、ぜひ今度の合唱セミナーでかかえていただければと思います。

### 唱歌、そしてモーツァルト——今回の講習曲

今回の講習曲のメインは、寺嶋陸也（編曲）：混声合唱とピアノのための「ふるさと」——明治・大正・昭和の唱歌編曲集です。〈海〉、〈夕焼小焼〉、〈冬の夜〉、〈荒城の月〉、〈野菊〉、〈故郷〉、〈村の鍛冶屋〉という有名な唱歌7曲が混声合唱のために編曲されています。

編曲者の寺嶋陸也は、作曲、ピアノ演奏、指揮、コンサート企画など、様々な分野で活動を展開するマルチな才能の持ち主。この編曲も、原曲の流

れを尊重しながら、ところどころに絶妙なスパイスを効かせ、唱歌のすばらしさを見事に現代にのみがえらせています。

ちなみに、昨年9月のオペラシアターこんにゃく座〈変身〉で、寺嶋さんが楽士の一人として登場し、軽妙洒脱なピアノで見事に舞台を支えていたのを覚えていらっしゃる方も多いことでしょう。

さて、講習曲としてもう1曲、講師の強い希望で加わりました。モーツァルトの〈アヴェ・ヴェルム・コルプス K.618〉です。モーツァルトが死の半年前に書いた最晩年の作品の一つで、わずか46小節のなかに盛り込まれたその敬虔な感情と神秘的な響きは、合唱愛好家なら一度は自ら歌って味わいたいものです。今回は、藤井宏樹氏の指揮で歌えるのですから、この貴重な機会をお見逃しなく！

講習曲の楽譜は、水戸芸術館ミュージアムショップ「コントロールポアン」でも扱っています。当日は音取り練習はいたしませんので、事前に楽譜をご入手いただき、個人で譜読みを行った上でご参加ください。 〈関根〉

## SELF

クラシック音楽の魅力を伝えるべく、県内の演奏家たちが集まります。

■ 2/21(日)

茨城音楽文化振興会  
第8回定期演奏会  
アーリースプリングコンサート

茨城音楽文化振興会は、茨城県出身の演奏家が集い、イベントや小・中学校への出張演奏を中心に様々な活動を続け、身近に音楽に触れていたくために活動してまいりました。

また年に一度行われる定期演奏会も、この度8回目を迎え、回を重ねるごとに色々な発見や感動が

## PORTRAIT

あり、演奏家と聴衆の皆様とが結びつく素晴らしい機会であることを実感しております。今回も私達がかれまでに歩んだ経験を生かしながら、ピアノ、声楽、管楽器の特色を幅広く取り入れ、皆様にソロやアンサンブルをおりませた多彩なコンサートを楽しんでいただけたら、と思っております。

コンサート第一部では、フルート、クラリネット、ファゴットによるヴァンハル作曲〈トリオ 変ホ長調 作品20の5〉から演奏いたします。ピアノも加わり、音楽の広がり、息のあった演奏をお楽しみください。次に、ピアノ独奏によるドビュッシー作曲〈ヒースの茂る荒地〉〈カノーブ〉〈アナカプリの丘〉で郷愁や古代への懐古、瞑想を表現いたします。続いてフルート独奏、ダマーズ作曲〈演奏会用ソナタ〉をお楽しみいただき、第一部最後は、グリーンカ作曲〈クラリネットとファゴットの

ための悲愴三重奏曲 二短調〉を演奏いたします。

第一部で器楽の音色を味わっていただいた後、第二部では趣を変え、声楽からのスタートとなります。体全体が楽器となり器楽とは違う響きをお楽しみください。ソプラノ根子によります日本歌曲〈平城山〉、カッチーニ作曲〈アヴェ・マリア〉。続いてソプラノ手塚の〈十五夜お月さん〉〈さくら横丁〉歌劇『ラ・ボエーム』第3幕より〈告別の歌〉。ソプラノ市村の歌劇『セミラーミデ』より〈麗しい光が〉と続きます。そして器楽の響きにもどり、ピアノ独奏によるリスト作曲〈バガニーニ大練習曲〉〈ラ・カンパネラ〉他、ソプラノ、ファゴットによるヘンデル作曲『メサイア』より〈おお、シオンの娘よおおいに喜べ〉を演奏いたします。そして最後はサクソフォーン独奏によるバダール作曲の〈ファンタジー〉、ドゥメルスマン作曲の



山口泉恵



後藤晴美

〈ファンタジー〉。2つの〈ファンタジー〉でコンサートを締めくくります。

今回の企画にあたり、「偉大な作曲家が残した作

品を我々演奏家が解釈・表現し、音楽の素晴らしさを皆様にお伝えしたい。未来へ向かう子供達に音楽を純粋に楽しんでもらいたい。」等の想いがあり

ます。演奏会にて皆様が深く音楽に心動かされますことを願い、ご来場を心よりお待ち申し上げております。 茨城音楽文化振興会 柴沼 仁

## 水戸に縁をもつピアニスト山口泉恵が、心にあたたかく寄り添う音楽を届けます。

■2/27(土)

### 山口泉恵 ピアノ・リサイタル

皆さま、こんにちは。ピアノの山口泉恵です。

最高に響きの美しいATMホールで再び演奏できますことを、たいへん嬉しく思います。

今回の演奏会は、『慈の愛、悲の愛』をテーマにしています。人々に寄り添って共に哀しみ、時に慰め、時に励ましてくれる音楽をしみじみと奏でたいと思います。このような気持ちになったきっかけは、ふたつあります。ひとつは私達を取り巻く今の社会の状況です。世界にはテロや紛争、身近にも失業問題など様々な困難があります。日々

の暗いニュースからは悲痛な心の叫びが聞こえてきます。もうひとつはルーマニアでのある出来事です。2003年から協奏曲を演奏しに何度か訪れています。ある時、リハーサルを終えてステージを降りた私に、ホールの隅から笑顔を送る人がいました(私のオーケストラとの練習は一般に公開しています)。すやすや眠る赤ちゃんをベビーカーに乗せた若い母親でした。昼の散歩の途中に立ち寄ったらしいその人は、満足して幸せそうにニコニコしていました。それは「音楽を喜ぶ人がいてくれる」と強く感じさせるもので、私は感謝の気持ちでいっぱいになりました。それ以来、人の心にあたたかく寄り添うような音楽を・・・と思い続けています。

プログラムの最初はJ.S.バッハ。〈パルティータ 第2番〉は堂々とした風格を持ち、「慈父」という言葉が頭に浮かびます。次にシューベルト。(即興曲 作品90) から第1番と第3番の2曲を弾きます。彼の死の前年の作品で、叙情的なロマン性を

小さな形式の中に発揮した傑作です。細やかなニュアンスの変化に心の優しさを感じます。後半の始まりはブラームス。(3つの間奏曲 作品117)は彼の晩年の作品で、孤独や寂しさや諦観といった深い叙情に満ちています。そしてベートーヴェン。作品111は彼の最後のピアノ・ソナタ(第32番)であり、2つの楽章で見事に完結した作品です。最初の楽章は強烈なレチタティーヴォで始まり、強い緊張感が苦悩する姿を表しています。結びの楽章は心の深奥から流れ出る歌で、祈りと万感こももに至る思いがあります。最後には大肯定と感じる高揚感があり、まるで浄化された魂が天に召されるようでもあります。来世の幸せを確信させる偉大な作品です。

これらを前にして、どこまで真に迫れるかと懸命に取り組む毎日です。心が潤う音楽を皆さまに届けたいと思います。ご来場を心よりお待ちしております。 山口泉恵

## 水戸を拠点に活動する後藤晴美による、フルートの魅力を伝えるリサイタル

■3/21(日)

### 後藤晴美 フルート・リサイタル

木管のフルートはピッチが低い、独特のコン!という小気味良い立ち上がりが魅力だ。前回のリサイタルでも、このホールと相性が良かったので、木の響きのモーツァルトで音楽会の幕を開けようと思う。

昨年ついにずっと狙っていたアルト・フルートを手に入れた。1920年頃製作の名工ジョージ・ヘインズの手によるもの。アルト・フルートの歴史と照らすとかなり初期の物だ。そのアルト・フルートを使いたい、と思って選曲したのが故廣瀬量平氏の〈岬のレクイエム〉である。フルート・オーケストラのオリジナル曲も多数手掛けた廣

瀬さんとは何かと縁があり、初演の楽譜を空港で配られて機内で譜読みしたり、出身地である函館市のフルート・クリニックで一緒にさせていただいたり(廣瀬さん縁の五島軒でカレーをいただくのが恒例だった)いくつもの思い出がある。惜しくも亡くなられた昨年、フルートフェスティバルでは、追悼の意を込めてこの〈岬のレクイエム〉のアルト・フルート・ソロを演奏させていただいた。もっと多くの方に聞いていただきたいと思い、今回はピアノ伴奏版で演奏する。

フルート・ダモーレという楽器がバロック時代に存在したという。その残された僅かな文献等を頼りに、いくつかのメーカーが再現を試み、今ではフルート族の一つとして名を連ねている。甘く優しいフルート……そのロマンの漂う名前に惹かれて10余年、この楽器のレパトリーを模索するのは今やライフワークとなっている。

今回は発想を変えて、近代フランスの作曲家であるミヨのソナチネをダモーレで演奏してみたい。理由は第1楽章の冒頭に書いてあるTendre(優しく)、第2楽章のSouple(しなや

かに)、第3楽章のClair(明るく)。これらの表情はダモーレの音の特徴でもあり得意分野だからだ。

かねてからヴァイオリンには憧れをもっていた。まず楽器のフォルム。ただ棒のようなフルートとは違って美しい曲線で出来ており、その色合いや質感にも芸術を感じる。早い話が絵になるのだ。フルートでヴィブラートを学ぼうとするならば、弦楽器奏者の左手を見る。目に見えない息をイメージする時に弓と比較する。フレーズやアーティキュレーションを考える時には、ボウイングを参考にする。その、憧れのヴァイオリンと共演しよう!と思い立ち、片見京子さんにアタックした。メインは〈音楽の捧げ物〉のトリオ・ソナタ。他にもトリオ作品を2曲程付き合ってもらったことした。

そして、信頼するピアニスト、小林由佳さん。その的確で鮮やかな演奏によって全編が成り立つ。

素敵な共演者と、偉大な作曲家達の残してくれた作品と、ご来場のお客様と、素晴らしい時間を共に過ごせれば幸いです。 後藤晴美



## 最近の公演から

NOVEMBER  
DECEMBER  
JANUARY



1



2



3



4



5



6



7



8

### 水戸室内管弦楽団第78回定期演奏会

(11月25日、26日、27日)

音楽顧問・小澤征爾指揮の第78回定期演奏会。4人のソリストが表情豊かに歌ったハイドンの〈協奏交響曲〉、天才バロークの名演に沸いたモーツァルト〈ホルン協奏曲 第3番〉、そして指揮者とオーケストラとの絶大な信頼のもとに繰り広げられた渾身の〈第39番 変ホ長調〉と、充実のアンサンブルがホールに響いた。バロークはアンコールとして、26日にはブラームスの〈エチュード〉、翌27日にはJ.S.バッハの〈無伴奏チェロ組曲 第1番 ト長調〉からクランツ、ワーグナーの楽劇〈ジークフリート〉のモチーフ、チャイコフスキーの〈交響曲第5番 ホ短調〉から第2楽章のテーマと、大喝采に込めて3曲も披露。また29日には、岩手県久慈市のアンバーホールで館外公演を行い、1000人を超す満員のお客様から温かい拍手が贈られた。《高巣》

アンケートから●いかにも仲間と楽しく音楽しているといったハイドン、名人芸という以前にあまりにも豊かな音楽に圧倒されたバロークさんのホルン、小澤先生らしい、柔軟な中にもしっかりと音が弾けたモーツァルトの第39番と、MCOによる明るい古典派を堪能しました。(タイ在住：S.K.さん) ●指揮のもとにそれぞれ個性豊かなソリストが一つの音楽に変わっていくことが素晴らしいです。(那珂郡：M.S.さん) ●MCOの楽団員さんの顔をプログラムを見ながらちょっとずつ覚えていきます。ひいきの役者さんのようです。(A.Y.さん) ●室内オーケストラの一つの理想型を見せてもらったような気がします。協奏交響曲は、ひたすら明るい曲なのに何故か涙が出てきました。第39番は私の最愛の曲、そして最高の演奏でした。(さいたま市：H.N.さん) ●このホールは、本当に室内楽向きですね。音がどこから出ているのか分からないくらい、とても柔らかく私の耳に届き、からだ全体が包まれて…幸せな気持ちになりました。(水戸市：N.K.さん)

### アートタワーみとスターライトファンタジー

第14回 クリスマス・コンサート [市内小中学校 芸術館コンサート] (12月5日)

子供たちにふるさと水戸で夢を与えたいと市民有志の方々が、募金活動をして、水戸芸術館のタワーや建物、さらに水戸駅前などをライトアップする「アートタワーみとスターライトファンタジー」。今や水戸の街にすっかり定着して、「冬の風物詩」とも言える趣をもってきました。その関連イベントとして、水戸市内の小・中学生が日頃の音楽活動の成果を披露する「クリスマス・コンサート」も、今回で第14回目となりました。今年は19校、23団体、およそ800人の子供たちが参加して、金管合奏、吹奏楽、器楽、合唱などの演奏が披露されました。《中村》

### 水戸の街に響け!300人の《第九》2009

(12月13日)

師走の水戸の風物詩となった水戸芸術館の《第九》公演。前回(2008年)はあいにくの雨に見舞われコンサートホールでの開催でしたが、今回は天気に恵まれ、12月にしては暖かく、風も弱い絶好のコンディションで演奏できました。

芸術館の《第九》が、屋内ではなく野外での上演を前提としていることを確認するかのよう、300名を越す大コーラスは例年以上の力と輝きのある歌声で、水戸の街を元気づけてくれるようでした。指揮の鈴木良朝氏をはじめとする茨城県合唱連盟の先生方を中心に行われた9月からの練習の成果が、見事に発揮されていました。小濱妙美(ソプラノ)、山本彩子(アルト)、倉石真(テノール)、清水良一(バリトン)の独唱陣が演奏に華を添え、小林由佳、久保田彩子(エレクトーン)、中村真由美、中村佳代(ピアノ)、尾花章子(ティンパニ)の器楽陣が見事に声楽を支えてくれました。

思い返せば、市民の力で水戸の街に元気を与えようと、この300人の《第九》が始まったのが1999年。早いもので10年が経ちました。《第九》がこれだけ市民の間に定着したことを誇らしく思うとともに、地道に継続していくことの大切さと重みをひしひしと感じています。 《関根》

### クリスマス・プレゼント・コンサート2009

(12月23日)

畑中良輔芸術総監督の企画・進行により、全7ステージでお贈りした今回のクリスマス・コンサート。開演前にはエントランスホールでNHK水戸児童合唱団が、クリスマス曲を披露しました。演奏会の第1部は、アルト歌手の栗林朋子さんが、J.S.バッハの〈クリスマス・オラトリオ〉の中の3曲のアリアを歌い上げました。第2部はヴァイオリニストの島田真千子さんが、数々のセレナーデ作品を演奏しました。伴奏は水戸を中心に活躍するピアニストの中村佳代さん。第3部は、NHK-FMのレギュラー番組などでお馴染みのピアニストの小原孝さんのステージ。第4部は、恒例の出演者のCDなどが当たる抽選会。第5部は水戸出身の尺八奏者小林幹さんとピアニストの若井優也さんによるジャズの即興演奏。第6部は、ソプラノ歌手の小濱妙美さん、テノール歌手の岡田尚之さん、ピアニストの久邇之宜さんによるマスカーニの〈カヴァレリア・ルスティカーナ〉のステージ。そして第7部は、鈴木良朝さん指揮、あひる会合唱団が出演しました。終演後エントランスホールで、同合唱団によるクリスマス・キャロルの合唱が行われました。オルガン伴奏は長田真実さん。《中村》

アンケートから●〈セレナーデ〉のヴァイオリンが素晴らしい。小原さんのピアノは元気が良く、弾んで楽しい。(水戸市の方) ●オペラはプロの音量にびっくりしました。(無記名の方) ●いつもすばらしい企画です。中村佳代さんのファンです。(無記名の)

1~2. 水戸室内管弦楽団第78回定期演奏会

3~4. アートタワーみとスターライトファンタジー 第14回 クリスマス・コンサート

5~6. 水戸の街に響け! 300人の《第九》2009

7~8. クリスマス・プレゼント・コンサート 2009



1



2



3



4

方) ●あひる会の合唱を初めて聞きました。しっかりとしたバスの上に音がのって、とても気持ち良く聞かせていただきました。(水戸市：H.N.さん)

### ニュー・イヤヤー・コンサート2010(1月5日)

「浪漫紀行一音の詩人 ショパンとシューマンを訪ねて」と題し、2010年のニュー・イヤヤー・コンサートでは生誕200年を迎えたこの2人の作曲家の音楽をたっぷりお届けした。司会を務めたNHKアナウンサー、森山春香さんがこの2人の生涯をさわやかに紹介。専属楽団メンバーによるソロやアンサンブルに加え、華麗なピアノ演奏を披露した児玉桃さん、シューマンの情感あふれる歌曲を見事に聴かせた天羽明恵さん、アンサンブルで大活躍だった野平一郎さんと、次々と熱演が繰り広げられた。今回のオープニングとフィナーレは、ショパンのピアノ協奏曲第1番をオーケストラではなく弦楽合奏版で演奏。また一般的に親しまれている作品だけでなく、聴く機会の少ない作品もお届けした。今年、水戸芸術館ではこの2人の音楽をより深く味わえるような企画を予定しています。どうぞお楽しみに！《高巣》アンケートから●私の大好きな2人の作曲家のフルコースメニューだったニューイヤヤー。シューマンの深い愛のある音楽、素晴らしい調べとの出逢いをいただき感激です。(無記名の方) ●久保田さんと野平さんの《ノクターン第20番》がすてきだ。川本さんと野平さんの《おとぎの絵本》はジーンとしてみてくようだ。天羽さんの声は澄んでいて、よく伸びて心地よく聴けた。総じてショパン、シューマンの音楽の福袋といったニュー・イヤヤー・コンサートでした。(東京都板橋区：S.I.さん) ●解説をしてくれて良く理解できた。(水戸市：J.T.さん) ●非常に心に残る良い演奏で、感動しました。弦の音の響き、ピアノとフルートの美しさに新春というめでたさもプラスされて、私の心に入ってきました。(無記名の方)

### Coro La DIVA 1st Concert(1月16日)

「茨城の演奏家による演奏会企画」シリーズとして開催した演奏会。合唱指揮者の原田昌江さんが指導する「河和田幼稚園アンサンブル愛」と「女声アンサンブル With (旧コール潮来)」という、二つの女声合唱団のメンバーによって結成された女声合唱団「Coro La DIVA」の記念すべき第1回公演です。熱意あふれる事前リハーサルが繰り返され、ステージ間での衣装の着替えなど演出面でも入念な準備が行われました。そしていよいよ迎えた当日の演奏会。ステージは4部構成で、第1ステージはシューマンの《ロマンス 第2集 作品91》から5曲が取り上げられました。第2ステージは、スペインのバスク自治州出身の作曲家のハビエル・ブスト(1949-)の宗教曲を中心とする5つの作品が、時に清楚に、時に大らかに歌われました。休憩をはさんで第3ステージは、《なごり雪》や《木綿のハンカチーフ》などのポピュラー作品を信長貴富が女声合唱に編曲した作品をリラックスした楽しい雰囲気の中で、歌い上げました。第4ステージは、当館で2月28日に実施する「合唱セミナー2010」公演の講師としても出演予定の、藤井宏樹さんが客演指揮者として登場。三善晃の女声合唱のための《三つの抒情》などの作品が情趣豊かに披露されました。《中村》アンケートから●透明なハーモニー(ユニゾンも含め)に背筋がゾクッとしました。すばらしかった。癒されました。(無記名の方) ●すばらしいコンサートを聴くとやっぱり歌いたくなりますね。第2回を期待します。(無記名の方) ●藤井先生の指揮を拝見して、これこそ Maestro と感心しました。(水戸市：S.K.さん)

1~2.ニュー・イヤヤー・コンサート2010

3~4. Coro La DIVA 1st Concert



1月5日に行われたニュー・イヤヤー・コンサート2010の曲目をご紹介します。

ショパン：ピアノ協奏曲第1番 作品11から第1楽章 (Pf&弦楽合奏版) (指揮：堀 伝、ピアノ：児玉 桃) / ショパン：ピアノ三重奏曲 作品8から第2楽章 (Vn：小林美恵、Vc：堀了介、Pf：野平一郎) / ショパン (ミルスタイン編曲)：ノクターン第20番 <レント・コン・グラン・エ

スプレッショナーネ) (Vn：久保田 巧、Pf：野平一郎) / ショパン：ロッシェニの歌劇《シンデレラ》の主題による変奏曲 (Fl：工藤重典、Pf：野平一郎) / シューマン：3つのロマンス 作品94から第2曲 (Fl：工藤重典、Pf：野平一郎) / ショパン：ノクターン第8番 作品27の2 (Pf：児玉 桃) / ショパン：スケルツォ 第2番 作品31 (Pf：児玉 桃) / シューマン：幻想小曲集作品73 (Vn：加藤知子、Pf：児玉 桃) / シューマン：《子どもの情景》から第7曲「トロイメライ」作品15の7 (弦楽合奏版) / シューマン：小さい子供と大きい子供のための12のピアノ小品 作品85から第12曲《夕べの歌》(弦楽合奏版) / シューマン：ヴァイオリン・ソナタ第1番 作品105から第2楽章 (Vn：沼田園子、Pf：野平一郎) / シューマン：おとぎの絵本 作品113から第2曲、第4曲 (Va：川本嘉子、Pf：野平一郎) / パガニーニ：24の奇想

曲 作品1から第9番《狩獵》、第24番 (Vn：久保陽子) / ショパン：チェロ・ソナタ 作品65から第2楽章 (Vc：松波恵子、Pf：野平一郎) / シューマン：ピアノ四重奏曲 作品47から第4楽章 (Vn：中村静香、Va：店村真積、Vc：堀了介、Pf：野平一郎) / シューマン：《ミルテの花》作品25から第1曲「献呈」、第3曲「くるみの木」、第24曲「きみは花のよう」、《リーダークライス》作品39から第2曲「間奏曲」、第5曲「月夜」、《6つの歌》作品89から第6曲「ばらよ、かわいいばらよ!」、《子供のための歌のアルバム》作品79から第23曲「もう春だ」(Sop：天羽明恵、Pf：野平一郎) / ショパン：ピアノ協奏曲第1番 作品11から第3楽章 (Pf&弦楽合奏版) (指揮：堀 伝、Pf：児玉 桃)



## information

- チケットに関するお問い合わせ  
…水戸芸術館チケット予約センター/029-231-8000  
営業時間/9:30～18:00(月曜休館)
- 公演内容や企画に関するお問い合わせ  
…水戸芸術館音楽部門/029-227-8118
- 【ATM便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

## 4月の小澤征爾指揮による水戸室内管弦楽団第79回定期演奏会および東京公演中止のお知らせ

4月9日から11日にかけて予定しておりました水戸室内管弦楽団第79回定期演奏会ならびに東京公演は当初、小澤征爾音楽顧問が指揮する予定でしたが、小澤氏は、年末に行った定期健診で食道癌が見つかり、治療に専念することになったために、指揮することが出来なくなりました。小澤氏の代役を必死になって探して参りましたが、しかるべき指揮者の調整がつかまらなかったため、これら公演を中止させていただくことになりました。4月の演奏会を楽しみにして下さっていた皆様へ、心よりお詫び申し上げます。

## 水戸市芸術振興財団職員(音楽部門)募集のお知らせ

水戸市芸術振興財団では、音楽部門の非常勤専門職員(嘱託職員)を募集します。

◆**募集人員**: 音楽部門非常勤専門職員1名(学芸職員への登用を前提とした非常勤専門職員です。) ◆**職務内容**: 音楽部門の行う事業の企画、制作等 ◇**採用予定時期**: 平成22年4月 ◆**応募資格**: 学校教育法による大学(短期大学を除く。)を卒業した方(この種の事業経験の有無を問わず。)、又は平成22年3月までに卒業見込みの方 ◆**雇用条件**: 雇用期間・6か月、賃金・月額160,000円以上(この種の事業経験年数がある場合は、一定金額を加算、交通費別途支給)/その他の雇用条件は、財団臨時職員就業規程による。 ※非常勤専門職員としての雇用期間終了後は、勤務成績を参考に学芸職員への登用を審査します。 ◆**応募方法**: 2月28日(日)(当日消印有効)までに次の書類を郵送又は水戸芸術館エントランスホール受付(月曜休館)に提出してください。郵送の場合は、「応募書類在中」と明記してください。 ●履歴書(顔写真を添付) ●原稿用紙に志望の動機(400字以内)をまとめたもの ◇**審査方法**: 第1次審査・書類審査/第2次審査・平成22年3月中旬予定、筆記試験(教養試験[国語、数学、英語、水戸芸術館に関すること]、専門試験[音楽]、小論文[芸術文化と地方都市]) / 第3次審査 平成22年3月下旬予定、面接試験 ◆**問合せ先**(応募書類郵送先): 〒310-0063 水戸市五軒町1-6-8 財団法人水戸市芸術振興財団 事務局総務係 TEL029-227-8111

## チケット・インフォメーション

### 〈2月27日(土)発売分〉

- ◎—小さな聴き手のためのコンサート— ピーターとおおかみ  
4/29(木・祝)14:00開演  
料金(全席指定): 大人¥2,500 小人(3歳以上12歳以下)¥1,000
- ◎中村紘子 デビュー50周年記念リサイタル  
5/15(土)18:30開演 料金(全席指定): A席¥4,500 B席¥4,000
- ◎リゲティの肖像  
6/20(日)15:00開演(14:00からプレ上演あり[100台メトロノームのための“ボエム・サンフォニック”]) 料金(全席指定): 一般¥3,500 学生¥1,000

## これからの演奏会・残席情報

- …残席あり(20席以上) △…残席わずか(20席未満) ×…残席なし  
中央…中央ブロック 左右…裏…左右ブロックおよびステージ裏 補助…補助席
- ◎〈ちょっとお昼にクラシック⑨〉  
疾駆のアンサンブル～独奏&二・三・四重奏～ ……2/19(金)中央×、左右・裏○
- ◎茨城音楽文化振興会 第8回定期演奏会  
アール・スプリングコンサート ……2/21(日)自由席○
- ◎山口泉恵 ピアノ・リサイタル ……2/27(土)自由席○
- ◎モーツァルト:ピアノ・ソナタ全曲演奏会 第6回 ……3/6(土)中央×、左右・裏○
- ◎後藤晴美 フルートリサイタル ……3/21(日)自由席○

※1/29(金)現在の状況です。  
※公演当日に残席がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問合せ下さい。  
※固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

## 水戸芸術館の主な2・3月のスケジュール

### コンサートホールATM

- 〈ちょっとお昼にクラシック⑨〉疾駆のアンサンブル～独奏&二・三・四重奏～  
2/19(金)13:30開演 料金(全席指定): ¥1,200(1ドリンク付き)
- 茨城音楽文化振興会 第8回定期演奏会 アール・スプリングコンサート  
2/21(日)14:00開演 料金(全席自由): 一般¥2,500 学生(大学生以下)¥1,000
- 山口泉恵 ピアノ・リサイタル  
2/27(土)14:00開演 料金(全席自由): 一般¥2,500 学生(大学生以下)¥1,500
- 合唱セミナー2010 講師:藤井宏樹  
2/28(日)10:00開始 参加費(全席自由): 一般¥1,000 高校生¥500 中学生以下¥300
- モーツァルト:ピアノ・ソナタ全曲演奏会【第6回】 演奏とお話:野平一郎  
3/6(土)18:30開演 料金(全席指定): ¥2,500
- 水戸市立新荘小学校管楽合奏部演奏会  
3/13(土)13:30開演 入場無料
- 後藤晴美 フルート・リサイタル  
3/21(日)15:00開演 料金(全席自由): 一般¥3,000 学生¥1,500
- 水戸市立笠原小学校金管バンド部第18回定期演奏会  
3/22(月・祝)14:00開演 入場無料

### エントランスホール

- パイプオルガン プロムナード・コンサート  
2月:20日(土) 3月:7日(日)、14日(日)、20日(土)  
開演時間:12:00/13:30(2回公演) 入場無料

### ACM劇場

- ACM Bookmobile “山本周五郎を読む” 朗読:長谷川裕久  
2/21(日)17:00開演 料金(全席自由): ¥500
- ジョン・ガブリエルと呼ばれた男  
3/4(木)19:00開演 料金(全席指定): A席¥6,000 B席¥4,000
- 水戸子供演劇アカデミー 卒業公演『星の下、青い夜の王国』  
3/27(土)14:00/19:00開演、28(日)14:00開演 料金(全席指定): ¥800

### 現代美術センター

- リフレクション——映像が見せる“もうひとつの世界”  
2/6(土)～5/9(日)9:30～18:00 ※入場は17:30まで  
休館日:月曜日 ※3/22、5/3(月・祝)は開館、翌3/23(火)休館  
入場料: 一般800円、前売・団体(20名以上)600円  
※中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付添いの方1名は無料

## 茨城の主な2・3月の演奏会 ※有料公演のみ

- ◆佐川文庫 TEL/029(309)5020  
■チェ・ソジン ピアノ・リサイタル 3/13(土)18:00開演
- ◆日立シビックセンター TEL/0294(24)7720  
■宝くじコンサート 東京フィルハーモニー交響楽団特別演奏会  
3/4(木)18:30開演
- ◆ギター文化会館 TEL/0299(46)2457  
■鈴木大介 ギターリサイタル 2/21(日)15:00開演  
■吉川二郎 ギターリサイタル 3/21(日)15:00開演  
■クエンカ兄弟 ピアノとギターの兄弟デュオ 3/27(土)15:00開演
- ◆ノバホール TEL/029(852)5881  
■アンサンブル・ベルデ第42回コンサート 2/20(土)14:00開演  
■茨城ピアノコンサート 2/21(日)14:00開演  
■松本 蘭 ひな祭りチャリティーコンサート 12人のヴァイオリニスト  
3/5(金)19:00開演  
■筑波大学管弦楽団33期卒業記念演奏会 3/21(日)14:00開演
- ◆結城市民文化センター・アクロス TEL/0296(33)2001  
■宝くじコンサート 東京フィルハーモニー交響楽団特別演奏会  
3/5(金)18:30開演
- ◆小美玉市四季文化会館・みの〜れ TEL/0299(48)4466  
■浜まゆみ マリンバコンサート 2/20(土)18:30開演

### 水戸芸術館音楽紙【ヴィーヴォ】 2010年2月発行 第147号

編集・発行/水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8  
TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130  
e-mail [ankmr@arttowermito.or.jp] URL [http://www.arttowermito.or.jp/]  
編集/水戸芸術館音楽部門(五十音順): 大金絢子 佐川真美 関根哲也 高巢真樹 中村晃  
DTP/村田征司[株式会社イセブ] 次号は…  
印刷所/株式会社あけぼの印刷社 春を迎え新シリーズ開始!